

「都」構想設計図案は0点

山中大阪市議 テレビ番組で討論

大阪市廃止・分割の「大阪都」構想について、関西テレビ「報道の生討論番組」が9日、共産、維新、自民、



テレビ番組で討論する(右から)山中、北野、土岐、松井の各氏=9日(関西テレビから)

公明の各党代表が激論を交わしました。

昨年12月に採択された「都」構想設計図案の方向性の点数を問われ、日本共産党の山中智子大阪市議団長は「0点、大阪維新の会代表の松井一郎大阪市長は「100点は無いが、今よりはベター」、公明党府本部の土岐恭生幹事長は「100点」、自民党市議団の北野妙子幹事長は「10点」とそれぞれ採点しました。

山中氏は「0点にしたがマイナスと言いたいくらいだ」と述べ、「『ニア・イズ・ベター』は看板倒れどころ

か自治体の体をなしていない」と批判。アナウンサーから「100点ですか。以前まで反対していた」と問われた土岐氏は「公明党はもともと賛成している」と回答。コメント

化で大阪は地価があがり、市民の資産価値が伸びた」と語ったのに、山中氏は「土地の値段が上がって喜ぶのは一部の人たち、大阪は月額の実収入、消費支出も全国より4万円ほど低い。完全失業率は全国より高い。これで『大阪をよくした』

「都構想の百書を教える」と切り出し、「住民サービスの低下が避けられない」「大阪市をなくすこと不安と混乱」「身近なところに権限、財源を移すという地方分権の流れに逆行」「最悪の制度」と答えました。

松井氏が「広域一元」と答えた。松井氏が「広域一元」と答えていることが、昔と同じ失敗の道に行く発想だ」と批判しました。